

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ/堀水潤一 撮影/中岡邦夫

杏林大学
学長

跡見裕



創立50周年の2016年に 三鷹新キャンパスに3学部が移転。 学部間交流や語学教育の充実を

学

長就任以降、各学部の学生代表から意見を聞く機会を設けてきましたが、昨年から新入生全員と昼食を共にしています。全部で30数回。建設的な意見や怠惰のない要望は大変参考になります。教育内容や環境などは満足度が高いものの、通学がやや不便な点は不評です。その点、2016年に予定している、八王子キャンパスから、現在医学部などがある三鷹キャンパスそばへの移転は、より魅力ある大学へと変革する絶好の機会です。

まず、医療系と人文・社会科学系の4学部が、近接したキャンパスに集まることで大学としての一体感が増します。観光交流文化学科の学生が医学部の教員から鳥インフルエンザなどの感染症

について学ばった学部間の連携や交流も、今以上に進めていきたいと考えています。本学の特徴は教員の顔が見える教育です。オフィスアワーを設け、訪れる学生を待つだけでなく、教員自ら学内を歩き、積極的に学生に話し掛け、悩みや問題を受けとめる必要があると思います。

本学では毎年100人前後の学生が語学研修や交換留学に参加しますが、これも積極的に進めます。外国語学部は半年、総合政策学部は2週間ほどの短期留学必修化を目指しています。奨学金制度の拡充など留学希望者は何らかの支援が受けられるようにします。「中国語圏で活躍するスマートでタフな日中英トライリンガル人材の育成」

【学長プロフィール】あとも・ゆたか●1944年生まれ。東京大学医学部卒業。東京大学医学部第一外科医局長、カリフォルニア大学サンフランシスコ校外科客員研究員などを経て、92年杏林大学医学部第一外科教授。杏林大学病院副院長、杏林大学医学部長を経て2010年より現職。

【大学プロフィール】1966年創立。医学部(医学科)、保健学部(臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科、臨床工学科、救急救命学科、理学療法学科、作業療法学科、診療放射線技術学科)、総合政策学部(総合政策学科、企業経営学科)、外国語学部(英語学科、中国語学科、観光交流文化学科)の4学部14学科。

構想が、文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択される以前から、本学は語学、特に英語と中国語教育に力を入れてきました。外国語学部は全学科で英語に加え中国語をほぼ必修にしています。総合政策学部には中国語で政策論を教える教員もいます。また、英語サロンや中国語サロンでは常にネイティブスピーカーと学生の会話が聞こえます。中国語を母国語とする人は約16億人。日中間でさまざまな課題があるとはいえ、最大の貿易パートナーとの関係はますます深まるでしょう。

グローバル化した社会で英語が重要なのは言うまでもありませんが、もう一歩進んだ交流は、相手の文化に根差した言語によって成り立ちます。グローバルとは単なるボーダレスを意味しません。自らの歴史や文化を理解し、また相手のこともしっかりと学び、互いに理解しあうことこそ本当のグローバルです。その基礎となるのが日本語能力でしょう。総合政策学部のプレゼミナールや外国語学部の基礎演習など、少人数の初年次教育で正しい日本語の使い方や幅広い教養を身につけてください。そのうえで、主張することは主張し、共鳴することは共鳴する。そんな人材になってほしいのです。